

矢作川流域圏懇談会通信

R3 流域連携 vol.2



発行日：令和3年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、三河湾の環境再生に向けた機運を高めることを目的として、愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、三河湾につながる山の情報を知っていただくために、根羽村森林組合による「動く木のおもちゃの展示ブース」を出展しました。また、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題と、魚のペーパークラフトを参加者に配布しました。

日程：令和3年10月24日（日） 10：00～16：00

場所：豊田自動織機海陽コットハーバー

参加人数：12名（事務局を含む）



三河湾の環境再生、SDGSの達成に向けたセレモニー「ガンバローコール」の様子

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容

■目的（チラシ、HPより抜粋）

三河湾環境再生プロジェクトの一環として、「知ろう！守ろう！命が生まれ、命が育つ きれいな海“三河湾”」をテーマに第8回三河湾大感謝祭が開催されました。

■主なイベント内容

- ◇三河湾環境トークショー（ゲスト：竹島水族館 小林館長＆瀧川鯉斗師匠）
- ◇名古屋CLEAR'S（アイドル）ミニライブ
- ◇クイズラリー（豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会提供）
- ◇セーリングワールドカップレガシーイベント（同時開催）



矢作川流域圏懇談会のブースを愛知県知事に紹介しました

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況

■矢作川流域圏懇談会

～活動紹介と矢作川に関するクイズの出題～

根羽村森林組合による木製の弓矢のおもちゃを出展し、矢作川に関するクイズを出題しました。約60名のクイズ参加者には「魚のペーパークラフト」をプレゼントしました。

イベントには19団体（国土交通省、愛知県等含む）が参加しました

■環境ボランティアサークル亀の子隊

～海ごみゼロの活動と流木ペン立て作り～

渥美半島にある西の浜海岸の現状を伝えるパネルの展示を行いました。また、流木を利用したペン立て作り体験を実施しました。

■愛知県水産試験場

～海の生きものの展示～

水槽に海の生きものを展示するとともに、パネルを用いた海の情報発信を行いました。

■愛知教育大学学生団体（SAGA）

～小・中学生へのSDGs教材の展示～

子どもたちにSDGs（持続可能な開発目標）を広めるための教材を展示しました。

■桜丘高等学校生物部

～朝倉川の生き物紹介とミナミヌマエビすくい～

豊川水系の朝倉川に生息する生き物の紹介と、ミナミヌマエビすくい体験を行いました。

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

他の湾に比べて汚れやすい形状にあるといわれる三河湾の特徴を紹介し、きれいな水質を目指すシーブルー計画の発信を行いました。

■愛知県資源循環推進課

～あいちの海とごみの関係～

パネル展示やカードゲームをとおして、海ごみの問題について紹介しました。



木のおもちゃ（弓矢）を楽しむ名古屋 CLEAR'S（上段）と子どもたち（下段）



東幡豆漁協石川組合長による講演

3. 三河湾大感謝祭の開催風景



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

【会場の雰囲気】

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・ものを加工し、持ち帰ることができるブースが多かった（およそ8～9割程度）。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底していた。
- ・展示ブースだけでなく、星越海岸での生き物観察会や、スナメリ号のクルージングなども開催していた。

【よかったと思うこと】

- ・動く木のおもちゃ（弓矢）の展示は、参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・矢作川流域圏懇談会ブースは、端ブースの場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の位置どりであった。
- ・魚、貝等の生き物展示は3ブース程度あった。多くの家族連れを集客していた。
- ・流域圏クイズはまず回答を記入いただき、その後解答のチェックと補足説明を行った。これにより、流域圏について理解・興味をもっていただけた。
- ・流域圏クイズの参加者には、矢作川流域圏懇談会風呂敷、魚のペーパークラフトを景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。
- ・矢作川流域圏懇談会の活動に興味を持っていた方が数名おり、10年誌をお見せしたところ好評だった。

【注意すべきこと・今後に向けた提案】

- ・流域圏クイズのレベルが高かった。
- ・ブースの大きさは、流域圏クイズ、パネル展示、木のおもちゃを展示するには、少し狭かった。
- ・今年は海風が強かった。風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を考える必要がある。
- ・出店規模に応じて木のおもちゃ、流域圏クイズ、パネルの展示などの内容を絞り込むほうが良い。
- ・赤色立体地図パネルに情報を盛り込んだり、指さして話せたりすると、人が集まるし、防災情報等も説明しやすい。
- ・一昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースがなかった。
- ・クイズの内容については、各部会であらかじめ話し合っておく必要がある。

～三河湾環境再生パートナーシップ・クラブとは？～

県民、NPO、企業、関係団体、教育機関、行政等が連携・協働して、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、県民の里海である三河湾を再生し、次の世代に贈ることを目的としたクラブです。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

